

第 26 回秩父宮記念スポーツ医・科学賞 受賞者のコメント

	功労賞受賞者 寒川恒夫氏	奨励賞受賞者 能瀬さやか氏	奨励賞受賞者 代表 小笠原悦子氏
秩父宮記念スポーツ医・科学賞の受賞の感想をお聞かせください。	受賞は「これがゴールで研究は終わり」でなく、余生もしっかり取り組みなさいという「励ましの背中押し」と受け止めています。	この度は、栄誉ある賞を頂戴し大変光栄に感じております。正直、医師を志した頃は、産婦人科学とスポーツ医学の両分野に関わることができるとは夢にも思っておりませんでした。これまで、多くの諸先輩方、同僚の皆様、関連団体関係者の皆様が、この分野に関わる多くチャンスを与えて下さりいつも背中を押して下さいました。今回の賞を頂き、スポーツ医学の知見を、スポーツ界に留まることなく社会へ還元していくことの重要性を改めて認識すると共に、今後も多職種、他団体と連携を取りながら、自分がやるべきこと、出来ることを見極めて日々精進していきたいと強く感じました。	このたび、「秩父宮記念スポーツ医・科学賞 奨励賞」という大変名誉な賞を受賞し、国内外の各方面からたくさんのお祝いのお声を頂戴しました。本センターの存在自体の認知及び活動内容の周知がスポーツ界に広がりをもたせ、改めて、本賞の偉大さを痛感いたしました。表彰式でお会いした方々との会話の中からも感じましたが、スポーツに関わる方々の様々な場面による働きかけ、功績があり、現在に至っております。このことを肝に銘じて、今後もこの賞に恥じないような活動をしていく所存です。
スポーツの研究者を目指す若者にアドバイスをお願いします。	大学のゼミで学生によく「親はなくとも子は育つ（先生に頼らず自分でやんなさい）。楽しくなければ研究ではない。」と話しました。「楽しくなければ研究ではない」は、私が敬愛する2人の先生の生き方でした。後姿をみて私もそうありたいと思っていました。楽しいテーマが見つかった研究者ほどハッピーな人はいません。	様々な職種の方々と連携を取り、多くの方から意見を聞いたり情報交換を行うことでアイデアが広がったり研究が発展していくと思います。	本センターは、2014年に設立されましたが、それまで、「女性とスポーツ」に特化した研究・普及啓発活動を多角的に行う組織はありませんでした。何も無いところから、新しく創造することはたやすいことではありませんが、真摯に、本物を目指して取り組んでいけば、必ず評価は得られます。自分の周りの小さな世界でとどまらずに、視野を広げ、自分と周りの人たちがワクワクするような研究に取り組んでいただけると幸甚です。そしてそれは必ず、公表し、スポーツ現場に還元するところまでを想定して、研究を推進していただきたいと思っております。

<p>スポーツの良さ・価値をどのようにお考えになっていますか。</p>	<p>ふつう「スポーツの良さ・価値」は社会への貢献度で測ります。しかし sport の原語の deportare は「私が楽しむ」を意味しました。極めて個人的な関心ごとから始まったスポーツも、今では国際平和を生み、維持するグローバルな社会的関心事に成長しました。そこで、こうした崇高性とはまったく異質な「楽しいから私はスポーツをします」という、他に貢献も依存もしない元々の「スポーツの無垢な自律性の価値」に近頃私は妙に心ひかれています。</p>	<p>スポーツには、多くの職種や団体と連携し社会に発信する力を持っていると思います。スポーツ医・科学の知見を社会に還元し、健康増進・疾病予防、競技力向上に寄与していく役割をスポーツは担っていると考えています。</p>	<p>スポーツの価値は、性別、障がいの有無、得意か不得意か、に関係なく「公平・平等」であることだと思います。女性スポーツ研究センターは、これからも「スポーツへの女性の参加と関与」を奨励するための研究・事業を推進してまいります。</p>
-------------------------------------	--	--	---